

KWACHA

NO. 25

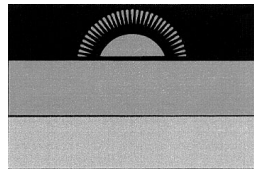
***** 2001.3.28 発行 *****

Kwacha(クワチャ)はチェワ語で「夜明け」を意味します。

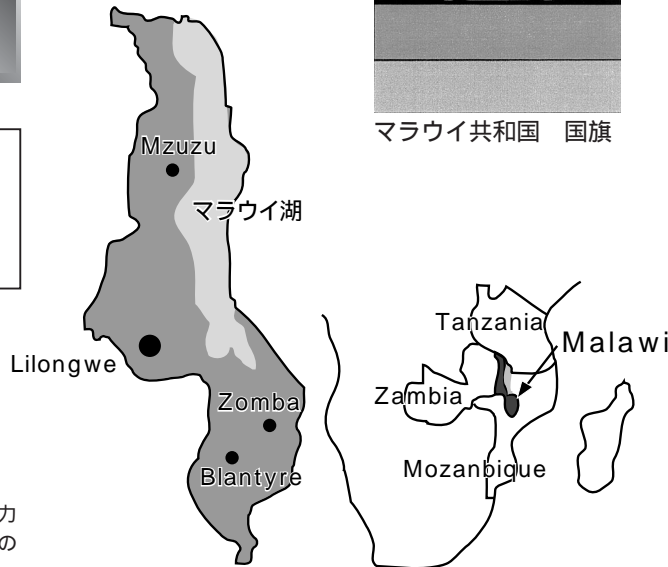
編集・発行：日本マラウイ協会
 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
 Tel. 03-3447-2921 Fax. 03-5798-4269
 Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
 E-mail japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
 人口：1038 万人 (1998 年央推計) 首都：リロングウェ
 独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
 政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ
 為替レート：US\$1 = MK 80.7500 (3 月 10 日現在)
 MK 1 = 1.49954 円 (3 月 10 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】
 日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を
 通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の
 上、広く各位の入会を希望します。
 会員数：276 人 (3 月 1 日現在)



マラウイ共和国 国旗



政府観光局開設イベント

かねてから設立準備が進められていたマラウイ政府観光局が、2000 年 12 月 1 日、東京・新宿のアフリカセンター内にオープンした。マラウイ政府観光局は、旅行会社・近畿日本ツーリスト(株)クラブツーリズム事業部がマラウイ政府との協力により運営するもので、同年 4 月 1 日に開設されたアフリカセンターにおいて、南アフリカ、ジンバブエ、ザンビア、ボツワナ、モザンビーク、タンザニア政府と共に、旅行や観光を中心とした情報を提供している。

場所は東京・西新宿 アイランドウィング 4 階で、地下鉄丸の内線 西新宿駅(下車スグ) JR 等の新宿駅(西口より徒歩 10 分)が最寄駅となる。アイランドウィングには、すでにアジア、東欧、中南米、アフリカ各国の観光局が集まっている。これまで観光局といえは有楽町周辺に集中していたが、徐々に新宿が拠点となっていくかもしれない。



マラウイ大使館の出版

マラウイ政府観光局がオープンした翌日・12 月 2 日には、新宿アイランドウィングにて、近畿日本ツーリスト(株)主催により、各国政府観光局合同の観光促進イベントが開かれ、駐日マラウイ大使館と共に、日本マラウイ協会も参加、協力した。当会は、出版物、民芸品の販売等のほか、桐田 OB(青年海外協力隊(JOCV)マラウイ派遣 昭和 46 年度 1 次隊によって、赴任当時と今も変わらぬマラウイをテーマにした講演を行った。また、マラウイ大使館はマラウイ紅茶の無料提供、観光関連の展示、大使による講演等を行った。中高年層を中心とした数百名の入場者には未知のマラウイに対する理解を深めていただくことができた。

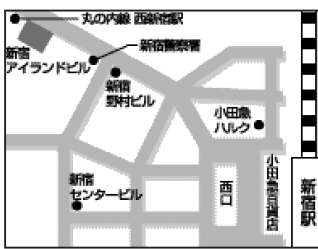


駐日マラウイ大使の講演模様

マラウイ政府観光局の開設により南部アフリカ 7 ヶ国の政府観光局がアフリカセンターに勢揃いしたのを記念して、来る 6 月 2 日(土)には、西新宿・アイランドホールおよびアイランドウィングにて、マラウイをはじめとする南部アフリカ 7 ヶ国による音楽・文化紹介と

観光促進を目的としたイベントが行われる。南アフリカ、ザンビア等の人気ミュージシャンによるコンサート(アイランドホール)や、各国の文化、自然、観光の紹介、マラウイ紅茶等飲食物の提供、各種講座(アイランドウィング)といった内容が予定されている。

コンサートや一部講座は有料となるが、その他は無料で入場は自由である。問い合わせは、クラブツーリズム アフリカセンター TEL.03-5323-2406 まで。



新宿アイランドビルの地図

高田小学校とマラウイの架け橋に

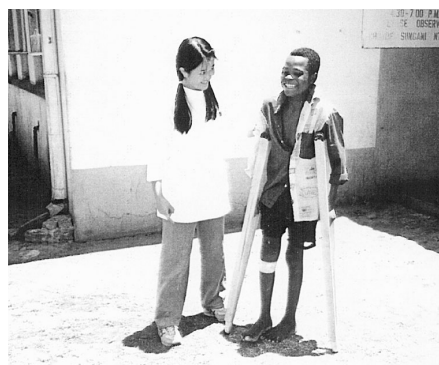
島根県仁多町立高田小学校は、JOCV マラウイ OB 小玉哲生氏(H6-3 薬剤師)が 97 年 9 月に同校で講演を行ったことをきっかけに、マラウイとの交流を開始した。当会はこの交流を側面支援している。

昨年 3 月、同校から「児童達が空き缶や古新聞を集めたり街頭募金を行って 1 年間で約 8 万円のお金を集めたのでマラウイへの援助(児童達の要望は医療関係)に使って欲しい」と当会に要請してきた。当会はマラウイ側に上記の旨を伝えたとこ、2 名の医療関係隊員が援助を希望

すると連絡があり、昨年 9 月に両名に半分ずつ送金した(前号既報)。2 名は、隅谷佐知子隊員(H10-3 理学療法士)と松浦綾子隊員(H10-2 保健婦)。この度、隅谷隊員からレポートが寄せられたので紹介する。

平成 10-3 理学療法士 隅谷佐知子 はじめまして、こんにちは！ 私は青年海外協力隊の隊員で国立カスング病院で理学療法士をしている隅谷佐知子といえます。1999 年の 4 月にマラウイに来て、この 4 月で日本に帰る予定です。

私は島根県にある高田小学校からの寄付のお金で松葉杖を購入しました。日本マラウイ協会を通して協力隊事務所より医療関係者へ高田小学校の児童が集めた寄付金の使い道について応募の話がありました。同校の児童がマラウイの医療事情の話を聞き、なんとかしたいとお金を集めたと聞きました。その小学生の気持ちがかもった大切なお金です。カスングの病院は松葉杖が一本もなく、そのため患者は歩行訓練ができなかったり退院できなかったりしていました。それを少しでも改善したくて高田小学校の話に応募しました。結果、約 320 ドルのお金でいろいろなサイズの松葉杖 108 本を買うことができました。患者さんに適切な時期に杖の貸し出しができるようになったため、入院患者の循環がよくなりました。歩行が必要な患者さんは杖を待つことなく、すぐに歩行の練習を始めることができ、とても助かっています。



外に出られてうれしい患者さんと

杖を購入してから感動した出来事がありました。足を骨折した高齢の女性 2 人がいました。2 人とも絶対安静時期は終わっていたのですが、痛みがあるといって歩きたがりませんでした。しかし、1 人の女性が歩けるようになり、周りの患者やその家族が誉めているのをみて、もう 1 人の女性も自分から歩く意欲をみせ、お互いの効果で私の想像以上に 2 人は早

く退院できました。これも病院に杖があったおかげです。

杖のお礼状と一緒にマラウイに興味を持っている小学校の児童たちに少しでもマラウイのことを知ってもらいたいと思い、マラウイの紹介の文章と写真(シマを作っているところ、シマを食べているところ、マーケット、患者さんの様子等)を送りました。

これを機会にあまり知らなかったマラウイという国に今まで以上に関心を示してくれたら、マラウイ大好きな私としてはとてもうれしいことです。

最後に、私は杖の購入を通して日本の小学生とマラウイの架け橋ができたことを誇りに思います。私は以前からアフリカで仕事がしたいと思っていたので、協力隊員としてマラウイに来ることができて本当によかったです。



歩行訓練中の患者さんと

この国立カスング病院への松葉杖の配備は、2 月 2 日の現地新聞 Daily Times に写真付きで報じられた。その要約を以下に示す。

日本の学校、国立カスング病院を援助

【2 月 2 日、Daily Times】

ジョージ(仮名)は昨年、交通事故で足を折った。しかし、専門家がいない病院が何マイルも離れているので、診に来てもらうのに 2 ヶ月もかかった。国内のほとんどの病院でも事情は同じで、国立カスング病院でも最近まで同様だった。

マラウイで最も交通量が多く事故がよく起こる道路のうちの 1 つに数えられる「M1(国道 1 号線)道路」沿いにある同病院は、この道路沿いにある他の病院と同様に、緊急の治療が必要な交通事故患者を継続的に受け入れている。

マラウイは、道路の交通事故率が統計上、世界で最も高い部類に入り、医師对患者比は世界で最も低い国の 1 つである。平均して、毎日誰かが道路上で亡くなっている。また、多くの交通事故で不具になる人がおり、理学療法の専門家が必要とされている。

日本の青年海外協力隊員である隅谷佐知子さんがマラウイに配属された最近ま

で、国立カスング病院には理学療法部門がなかった。同病院には、足を折った後の歩行機能回復を望む患者をサポートする松葉杖さえなかった。しかし、日本の高田小学校というところからの児童の寄付のおかげで、108 本の松葉杖が配備された。

マラウイは現在、患者 2000 人に医師 1 人という中で、特にほとんど専門家がない理学療法の分野で国民の医療上の需要を満たすため厳しい戦いに直面している。

同病院の管理者であるエドガー・クチンガレ医師は、108 本の松葉杖は歩行困難な患者に対して病院が持っている諸問題を軽減するのに役立つと見ている。同医師は「交通事故や様々な病気のために歩行困難をもつ患者は、もう松葉杖がないことによる妨げなしにリハビリテーションを始めることができる。この寄付は大変役立ち、私たちは日本の青年海外協力隊に感謝する」と述べた。

隅谷さん自身は、松葉杖の寄付のために高田小学校と同病院の間の「架け橋」になれたことを誇りに思うと述べた。

しかし、彼女は「現在マラウイには理学療法士がほとんどいないので、適切な人材を訓練すべきであり、さらに、理学療法士の数が増え、この職業の重要性に国民の認知度が高まり、理学療法への関心が向上することを期待している」と述べた。

.....【投稿】.....

国際協力フェスティバル 2000 に参加して
昭和 52-1 後 上下水道 吉田 均

マラウイに青年海外協力隊員として 1977 年から 5 年間いた。それから 1 年間、青年海外協力隊駒ヶ根訓練所で協力員として過ごし、協力隊との関わりは二十代の大半あったことになる。1985 年に 2 週間ほど仕事で再びマラウイへ行く機会があった。チレカ空港に着陸するときの癒しを受けた思いは、故郷に戻ったときに受ける、あの包まれた思いだ。「トシよく戻った」と街で会う人、オフィスの 2 階から手を振る、思い出を共にした人がいた。

昨年 10 月 7、8 日、国際協力フェスティバルに初めて参加する機会があった。例年 10 月上旬は仕事の都合で参加を逸していたが、初秋の暖かな日差しの中、楽し

いひと時を過ごすことができた。会社から近い日比谷公園は、早朝散歩で四季折々の風情を味わう好きな公園だが、その日は NGO や JICA 関係のブースが、通りの両脇に隙間なく用意されていた。日本にはこんなにもたくさんの援助団体、途上国との交流団体があるのかと驚いた。

あるとき、毎月行われるマラウイ協会の例会で、「9 月には上田さん、中川さんがマラウイに行くので土産を買って来もらい、それをブースに置こう」、「毎年人気のあるマラウイの揚げパンとチョンベ・ティーを出そう!」、「出来たばかりのチェワ語辞典もいいね」、「パネルはあったよね」ということで準備が始まった。



マラウイ協会のテントの様子

当日噴水の側にあったマラウイブースにはパネルを飾り、テーブルはマラウイからの土産もので埋められた。奥では中川 OB 指導のもと、マラウイの揚げパンを作り始める。揚げパンは小麦粉、バター、卵、砂糖を使い、てんぷら油で揚げたもの。香ばしさがあたりに広がるとお客さんが寄って来る。紙コップのチョンベ・ティーが添えられ 100 円での販売。

間もなくすると、駐日マラウイ大使が挨拶に来られる。独立記念日のシマを食べる会以来の面会で、スタッフと気さくに話される。朝からブースでわれわれ協会会員と共にいる大使館員に言葉をかける。今年 1 月の広尾での青年海外協力協会新春交歓会でも派遣国大使(当日は代理)としてみえて、協力隊との関わりを感じさせる。他のブースでもその国の大使館員が顔を出しているようで、各国の国際協力フェスティバルに対する理解と姿勢が窺える。

マラウイの土産もので人気が高かったのは、ダイアナ王妃の記念切手。パラッチに追われ非業の最期をとげたダイアナ王妃に対するマラウイ人の思いもそうだが、日本の若い人たちにもあることを改めて知る思いだった。エルトン・ジョンがダイアナ王妃のために作ったと言われる「キャンドル・イン・ザ・ウインド

1997」は、日本でも爆発的に売れた CD として、記憶に新しい。

私にとって毎月マラウイ協会の例会に出て仲間に会い、最新の情報を知ること、メーリングリストを読むこと、シマを食べる会、国際協力フェスティバルに出ることは、日本にいて「故郷マラウイ」に心の中で戻ろうとする試みに他ならない。また、マラウイにいる時綴ったメモをもとに、「ファイブ・イヤーズ・イン・マラウイ」を書くことも、今楽しみの一つだ。



当日のスタッフと(筆者は左から 2 番目)

6 年ぶりのマラウイ里帰り

平成 3-3 システムエンジニア 足田朋子

年末年始休みを利用して、1994 年に 2 年間の任期を終えて以来、6 年ぶりにマラウイに戻った。空から見る赤い大地とゆったりした川、マンゴーの木とマッシュルームハウス...、全てに「たたいまー」と叫びたい。エアーマラウイのタラップから、空港のデッキに並ぶ人々が見える。その中に満面の笑顔で手を振るマラウイアンがいるように思え、こちらも思わず両手で大きく手を振る。出口へ急ぐところにはブランタイヤ剣道チームのウィルソン君が、笑顔で迎えてくれた。もうこの時点で既に感無量。町に向かう車の中で、任期中見慣れていた景色の 1 つ 1 つにまた感激。全ての景色が懐かしい。本当に来て良かった...

朝、様々な鳥の鳴き声で目が覚める。チョンベティー、マンゴー、パイアで始まる朝は何て贅沢なのだろう。濃い緑とブーゲンビリアの鮮やかなピンクにクラクラする。カセットテープレコーダーを持ってくれば良かったとしみじみ思う。このアフリカの音を録音したい。はるか遠くに見える稲妻、スコールの雄大な景色、そして真っ赤な夕日、町の物売り、野菜、グンビ、シマ、チキン、チップス、ビリビリ...、この旅を共有する同期隊員の谷本さんと内輪の喜びを噛みしめる。

こんなノスタルジックな私達の気持ちとは裏腹に、マラウイアンの生活はこの 6 年で大きく変化したようだ。インフレは私達がいた頃より 10 倍近く上がっていた。50 クワチャ札が一番高いお札だったが、今は 200 クワチャ札がある。だが給料は 10 倍には勿論なっていない。しゃれたショッピングモールができ、スーパーの物も断然増えたが果たしてどれくらいの人を買えるのだろうか? リロングウェの新しいショッピングモールの入り口には、大きなシェパードが構え、店の中はほとんど外国人なのが異様だった。

ミニバスが増えたのにもびっくりした。日本車も増え、「美女高原」、「創業明治年 菓子...」等、おもしろいロゴの入ったミニバスが行列してお客を待っている。町では供給が需要を上回っている状態だ。ブランタイアからリロングウェまでノンストップのミニバスがあるなんて! M1 道路沿いに随分水道ポンプが増えたように感じた。



かつての同僚達と

職場(かつての建設省リロングウェトレーニングセンター)では何人かの同僚の訃報に驚く。もっと連絡を取っていたら良かった。職場ではちょうど New Year's Party が開かれていて、久しぶりに元同僚達と木の下でカニヤニヤとグリーンを楽しむことができた。いろいろ変わったことは多いけれど、マラウイアンの Warm Heart と Hospitality は全く変わってない。今回様々な場面で、マラウイアンの分かち合いの精神を目にした。少ししか持っていないくても、半分に分かち合う心の豊かさを改めて学んだように思う。隊員当時はそのマラウイアンのやさしさに感謝する気持ちのゆとりがなかったよう思う。マラウイアンに対する尊敬の念を新たに、アフリカの大地を去った。Zikomo Kwambiri!

《日本マラウイ協会》 平成 12 年 9 月～平成 13 年 2 月 活動内容

(1) マラウイ ウォームハート プロジェクト
マラウイ国内の地域発展と改善のために必要な草の根レベルでの協力活動で、資金不足で隊員支援経費を活用できないものを支援することを目的とし、日本マラウイ協会が隊員の要請に基づいて直接的な資金援助を行うプロジェクト。原資は当会創立以来 17 年余りに亘り事業収入金の一部を別段積立て続けた 100 万円。協力隊事務局と調整の上、実施中。

【9月～2月】

JICA マラウイ事務所を通じて在マラウイ青年海外協力隊員に対して当プロジェクトを募り、応募があった申請について合議による審査を行った。役員会として「チテゼプライマリースクール リノベーション プロジェクト(学校の校舎修復・

改善)」への支援を全員一致で合意し、その後、数原会長の決裁を得て起案者である大林幸徳隊員(H10-3、自動車整備)へ約 27 万円相当を送金した。同プロジェクトは 1 月初旬スタートし、2 月末現在約 70% の進捗率である。

(2) 国際協力フェスティバル 2000 への

参加(第 2-3 面の投稿参照)

【10月】

7、8 日の両日、日比谷公園にて行われた国際協力フェスティバルに参加。パネル展示と民芸品・書籍等の販売、および前年も好評であったマンガジ(揚げパン)とチョンベティーのセットを販売し、2 日間ともに盛況であった。

(3) 高田小学校からの寄付金
(第 1-2 面の記事参照)

【9月】

高田小学校からの寄付金を 9 月 13 日、

隅谷佐知子隊員(H10-3 理学療法士)と松浦綾子隊員(H10-2 保健婦)に送金。隅谷隊員は松葉杖の、松浦隊員は注射針、消毒液煮沸用圧力鍋及び日常使用の医薬品の購入にあてた。

【1月】

隅谷・松浦両隊員より活用用途等に関する報告書が届いた。

(4) 政府観光局開設イベントの協力参加

(第 1 面の記事参照)

【12月】

2 日、東京・西新宿の新宿アイランドウィングにて、近畿日本ツーリスト・クラブツーリズム事業部主催の各国政府観光局開設イベントが開かれ、中高年層を中心とした多数の入場者を迎えた。駐日マラウイ大使館と共に同イベントに当会も参加し、出版物や民芸品等の販売、紅茶の無料配布、講演等を行いマラウイに対する理解を深めていただいた。

日本マラウイ協会情報

第 19 回通常総会のご案内

日本マラウイ協会は第 19 回通常総会を下記のとおり開催します。会員の皆様は本紙に同封の葉書にて出欠をご連絡下さい。

1. 日時 平成 13 年 5 月 12 日(土)15:00 ~ 17:00
2. 場所 青年海外協力隊広尾訓練研修センター 2 階大会議室

「シマを食べる会」の予定ご案内

毎年恒例の「シマを食べる会(大懇親会)」を 7 月 7 日(土)の午後に開催する予定です。詳細は追って会員の皆様にお知らせします。

日本マラウイ協会の刊行物

- (1) チェワ語辞典 統合改訂版(2000 年 7 月発行)
B5 版 186 ページ 1 部 1,500 円(送料 310 円)
- (2) マラウイ旅行ガイド 新訂第 2 版(97 年 7 月発行)「アフリカの暖かき心湖とサバンナの大地へ」B5 版 108 ページ 1 部 1,200 円(送料 310 円)
- (3) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第 2 版(94 年 7 月発行)A4 版 40 ページ 1 部 1,000 円(送料 310 円)
各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx 冊希望」と明記してください。銀行振込の場合は事前に必ず e-mail、あるいは電話/FAX で「xxxx xx 冊希望」と当会宛連絡してください。

ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第 3 水曜日 18:30 ~ に、東京都内(通常は JOCV 広尾訓練研修センター 1F 研修室 2)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは、下記の当協会までお問い合わせください。

日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒150-0012

東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269

E-mail: japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

電話/FAX 番号が変更となっております。ご注意ください。

三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会 代表者 卜部敏男

(二ホンマラウイキョウカイ ダイヒョウシャ ウラベトシオ)

郵便振替 00190-7-13125

加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。